

滋賀県平和祈念館 年報

第 11 号

(令和 4 年度)



滋賀県平和祈念館

はじめに

滋賀県平和祈念館は、平成 24 年 3 月、「語りつぐ 平和へのねがい」を指針として開館し、その後、県民のみなさまのご支援により順調に活動をひろげ、以来 11 年を経過しました。この間の本館の活動については、『滋賀県平和祈念館 年報 第 1 号』を平成 25 年 12 月に刊行し、その後は各年度の活動について、それぞれ『年報』にまとめ、報告してきたところです。

令和 4 年度は、長く続いたコロナ禍が少しずつ終息に近づき、感染対策を維持しつつ、以前のような活動ができるように努力してきました。本館の来館者数と出前利用者数を足した利用者数も、令和元年の 2 万 8 千人の水準にまで戻ってきました。

さて、本館の運営にあたっては「モノと記憶の継承」、「自らできることのきっかけづくり」、「県民参加型の運営」という三つの基本方針のもとで、県民のさまざまな戦争体験を語りつぐ事業として、資料収集保存をはじめ、展示、普及啓発、平和学習支援、ボランティア活動支援などの諸事業を展開しています。

令和 4 年度の企画展示事業としては、前年度から引き続き公開した第 30 回企画展示「子どもたちが描いた戦争」、6 月 18 日からは第 31 回企画展示「戦死者 8,843 名 フィリピンの戦場Ⅱ－レイテ島・ミンダナオ島などの島々」、令和 5 年 1 月 5 日からは第 32 回企画展示「戦争と女学生－戦時下の学校生活と進路－」を、エントランス展示では陸軍八日市飛行場と八日市の街並みを紹介しました。

子ども向けの普及啓発事業では、『平和の学校あかり』を 4 回実施し、『平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール』には、468 点の応募があり、優秀な作品 6 点に対し、今年度からは「知事賞」を授与しました。

一般向けの普及啓発事業では、端信行前館長による「平和塾つなぎ人」、映画上映会を毎月開催し、11 月 5 日には「大津の戦争遺跡をめぐる」フィールドワークを行いました。また、8 月の平和祈念 week では、八日市児童合唱「スマッシュ」ミニコンサートや「平和祈念館 ー過去・現在・未来ー」と題する端前館長の講演があり、3 月の開館 11 周年記念 week では「大人のための歴史教室」として「食から日韓の近現代史を考える」というテーマで、館長である朝倉が「サハリンのキムチ」「植民地期の『味の素』」の二つの講演を行いました。

本館では開館前よりボランティアの募集を始め、現在、51 名の登録メンバーによりさまざまなグループ活動が行われています。8 月の平和祈念 week では手紙等解読グループによる「特攻兵と遺族の想い」、演劇グループによる演劇「君思う心胸に抱いて」が、3 月の開館 11 周年記念 week では、演劇グループによる紙芝居と朗読などが披露されました。

そして、DX 推進事業により、「戦争証言 2022」、「滋賀に残る戦争遺跡－湖北・湖西編－」の制作に加え、ホームページの更新、バーチャル語り部・収蔵資料データベースの構築、オンライン講座・講演会のための機器整備を今年度を実施しました。

これからも祈念館にご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

令和 5 年（2023 年）8 月

滋賀県平和祈念館 館長 朝倉 敏夫

目 次

I 事業概要

1 展示事業

- (1) 基本展示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (2) 企画展示・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- (3) 企画展示関連事業・・・・・・・・・・・・・・・・5
- (4) エントランスバナー・・・・・・・・・・・・・・・・6
- (5) 地域交流室展示・・・・・・・・・・・・・・・・7
- (6) 収蔵品展示・・・・・・・・・・・・・・・・8
- (7) 図書・映像コーナー・・・・・・・・・・・・・・・・9
- (8) 他館（市町）との連携展示・・・・・・・・9
- (9) その他の展示・・・・・・・・・・・・・・・・10

2 資料収集保存事業

- (1) 戦争体験聞き取り調査・・・・・・・・11
- (2) 収蔵資料の整理・保存・・・・・・・・12

3 普及啓発事業

- (1) 開館11周年記念事業・・・・・・・・14
- (2) 平和を祈念する日事業・・・・・・・・14
- (3) フィールドワーク・・・・・・・・15
- (4) 映画上映会・・・・・・・・16
- (5) 平和の学校あかり・・・・・・・・16
- (6) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール・・・・18
- (7) 平和塾・つなぎ人・・・・・・・・21

4 平和学習支援事業

- (1) 来館学習・・・・・・・・22
- (2) 出前授業・・・・・・・・23
- (3) 地域への平和学習支援・教職員等への研修・・・・23
- (4) 資料の貸出による平和学習支援・・・・・・・・24
- (5) 戦争体験者証言映像の制作・・・・・・・・25
- (6) 滋賀に残る戦争遺跡映像の制作・・・・・・・・25

5 ボランティア活動支援事業・・・・・・・・27

6 DX（デジタルトランスフォーメーション）推進事業

- (1) ホームページリニューアル・・・・・・・・28
- (2) データベースの公開・・・・・・・・28

II 資料

- 1 利用状況・・・・・・・・29
- 2 広報活動・・・・・・・・35
- 3 組織・・・・・・・・37
- 4 決算・・・・・・・・38
- 5 施設概要・・・・・・・・39
- 6 利用案内・・・・・・・・40
- 7 関係規程・・・・・・・・41

I 事業概要

1 展示事業

(1) 基本展示

基本展示は年間を通して見学できる常設の展示であり、滋賀県民と戦争の係わりや地域における戦争の影響など、かつて県民が経験した 15 年にわたる戦争全体を概観する内容となっている。

展示は滋賀県の地域ごとに戦争に関係した場所を紹介する「地域展示」と、収蔵資料や滋賀県民の戦争体験談を中心に、県民が体験した戦争の概要を伝える「滋賀県と戦争」の2つのコーナーで成り立っている。「地域展示」では、地域ごとの戦時中のデータ（当時の人口、戦没者数、軍事施設、主な軍需工場、空襲被害、集団学童疎開受入れ）を壁面パネル・柱パネル・床面の滋賀県航空写真で紹介した。

「滋賀県と戦争」では、県民の方々からの寄贈資料や体験談によって、戦争や戦場での体験と当時の県内の様子を紹介しており、コーナーの最後に現代の子どもたちの平和への願いを取り上げ、「平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール」の受賞作品を世界地図ボードで紹介している。令和4年度は出征のぼりを紹介するコーナー等の展示替えを行った。

また、企画展示室の映像スクリーンで、企画展示に関連する戦争体験者の証言映像を常時上映した。



「地域展示」



「滋賀県と戦争」(出征のぼり)

(2) 企画展示

第30回企画展示『子どもたちが描いた戦争』

会期 令和4年(2022年)1月12日(水)～6月12日(日)

会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース

前年度から継続して、第30回企画展示を開催した。

第31回企画展示『戦死者8,843名 フィリピンの戦場Ⅱーレイテ島・ミンダナオ島などの島々ー』

会期 令和4年(2022年)6月18日(土)～12月18日(日)

会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース

趣旨

アジア・太平洋戦争の開戦から80年目にあたる令和3年度(第29回企画展示)と令和4年度の2回に分けて、15年間の戦争での滋賀県民戦没者32,592名の3割近くに及ぶ、8,843名の戦死者を出したフィリピンでの戦争(最も多くの滋賀県出身者が犠牲となった戦場)をテーマとする企画展示を実施した。

今回の展示では、フィリピン奪還を目指して上陸作戦を企てるアメリカ軍との激戦地となったレイテ島や、フィリピンの特産品であるマニラ麻栽培のために戦前から多くの日本人移民が生活していたミンダナオ島などの島々を取り上げ、フィリピン各地での戦争を関係者の体験談やモノ資料で紹介した。

概要

【フィリピン 戦死者1%のプロフィール】

第29回企画展示と同様に、滋賀県にゆかりのあるフィリピンでの戦死者のうち、家族や親しい人たちから当館に情報(当館が実施した戦争体験聞き取り調査や資料寄贈など)が寄せられた約100名の戦死者のプロフィールを紹介し、関連するモノ資料を展示した。

モノ資料は、戦地から家族への手紙や、家族のもとに残された遺品などを紹介した。個々のプロフィールは、フィリピンでの戦争経過の年表と連携させる形で、戦死年月日順に戦死した場所(島など)を色分けして紹介するとともに、家族や親しい人たちから見たその人柄や家族との別れの様子など、兵士である以前に一人の人間であったことを気づいてもらうことを意図した。

なお、タイトル『戦死者1%のプロフィール』は当館に情報が寄せられた約100人の方々が、フィリピンでの県民戦死者(8,843名)の1%ほどであることを示すものであり、フィリピンでの戦争でいかに多くの人が亡くなったのかを物量的に体感してもらえる展示とした。

【フィリピンの戦場では】

「戦場となったフィリピン」「レイテ島では・・・」「在留邦人と戦争ーミンダナオ島の民間人が体験した戦争ー」「その他の島では」の4つのコーナーに分けて展示を行った。

「レイテ島では・・・」では、兵士としてレイテ島での激戦を経験した上野正雄さんや吉居靖夫さん、「在留邦人と戦争ーミンダナオ島の民間人が体験した戦争ー」では、在留邦人として戦争に巻き込まれた大城昇さん、「その他の島では」では、バタン島やネグロス島、フガ島、ホロ島で戦った方々に関する体験談などを、関連するモノ資料とともに紹介した。

【戦死した人たちへの想いー慰霊と遺骨収集ー】

アジア・太平洋戦争における海外戦没者（硫黄島・沖縄を含む）は約 240 万人にのぼるが、遺骨が収集されてご遺族のもとに返されたのは約半数にとどまっていること、特にフィリピンでは 30%に満たない状況であり、現在も遺骨収集などの取り組みや現地での戦没者慰霊が行われていることについて、田村芳江さんや植田美代子さんなどの体験談や写真パネル、関連資料により紹介した。



第 31 回企画展示

第 32 回企画展示 『戦争と女学生ー戦時下の学校生活と進路ー』

会期 令和 5 年（2023 年）1 月 5 日（木）～6 月 25 日（日）

会場 滋賀県平和祈念館企画展示スペース

趣旨

明治後半から大正期にかけて、近代の教育制度が拡充し、それとともに小学校を卒業した女子の進学率が上昇した。また、女子中等教育の必要性から県内の高等女学校等の設置開校が増え、昭和 20 年（1945 年）頃には、21 校あった。一方、日中は働き、必要に応じて学区内の青年学校や裁縫学校等へ通う女子たちもいた。

しかし、戦争の長期化は女学生たちの学校生活と進路を変えていく。体育の授業に教練が入り、セーラー服のスカートからモンペ姿になって、さらには「勉強よりも増産」の掛け声のもと、軍需工場や開墾へ動員されていった。

学校を卒業した女子たちは、救護要員としてふるさとを離れて戦地または外地へ赴

いて働くようになる。他方では戦地へ出征した男性に代わって、学校の教員や役場、銀行等へ勤めるようになった。

企画展示では、旧制の高等女学校の方々の体験談やモノ資料を中心に、戦時下の女学生の学校生活と進路について紹介した。



概要

【女子教育の拡充と学校生活】

戦前の滋賀県には、21校の高等女学校があった。高等女学校によって学修年限や授業内容が異なり、地域によって特色がみられる。授業内容は、裁縫や家事といった家庭内で必要とされた科目のほかに、物理、歴史等の一般的な科目も学んでいた。

また、クラブ活動や修学旅行、運動会や音楽会等の行事があった。セーラー服を着て革靴をもち革靴を履いて登校した女学生たち。今と変わらない学校生活を送っていたと想像できる。

【学校生活にしのびよる戦争】

日中戦争が始まる昭和12年（1937年）から昭和19年（1944年）頃に注目し、授業内容の変化、学徒動員体制の強化、服装の変化等を通して、戦争が学校生活に忍び寄っていくさまを紹介した。戦争の長期化によって、出征兵士の労働力を補うかたちで、軍需工場や外で働く女性が増えていった。

昭和19年（1944年）では、高等女学校の教室等に軍需工場ができ、女学生たちが動員された。また、女性の農業指導者を育成することを目的に、高等女学校から農学校へ転換した学校もあった。

【勉強よりも増産 ―滋賀県女子学徒勤労報国隊を中心に―】

昭和19年（1944年）になると、「通年動員」といい、高等女学校等では、授業時間が減り、生徒たちは軍需工場等で働くようになった。同年には、女学校の上級生らを中心に滋賀県女子学徒報国隊が結成される。県内の高等女学校13校、約2千人の女学生によって編成され、同年7月24日に名古屋に向けて出発した。慣れない工場作業のほかに、東南海大地震と度重なる空襲が女学生を襲った。

また、県内に残っていた女学生（主に1、2年生）も県内の軍需工場で働いた。



【それぞれの道へ】

高等女学校を卒業した方、またはすでに勤めていた女性たちの戦争体験について、一つ目は、故郷で働いた女性たちを紹介した。二つ目は、戦時中に海外へ渡った女性たちを紹介した。戦前の女性は、小学校卒業後は、働きながら看護や救護等の学校や裁縫学校へ通い資格を取る女性が多かった。ここでは、日本赤十字社で看護婦の免許をとり、救護要員として軍とともに海外へ渡った女性と、戦地の郷土部隊の激励のために派遣された慰問団の体験談と資料を紹介した。

【さいごに】

これまで、高等女学校の発展と戦争による学校生活への影響についてみてきた。最後に、戦時中の勤労働員によって命を落とした女学生のご遺族の言葉と、女学校へ入ったにも関わらず学ぶことができずに卒業したと語った方の体験談を紹介した。

(3) 企画展示関連事業

①企画展示説明会の開催

令和4年度は、企画展示会期中に担当学芸員による展示説明会を下記のとおり各1回実施した。

第31回企画展示 令和4年6月26日(日) 参加者13名

第32回企画展示 令和5年1月21日(土) 参加者7名

②企画展示関連動画の作成

第32回企画展示の見どころを紹介する動画を下記のとおり制作し、YouTubeに掲載した。

第32回企画展示「戦争と女学生」の概要説明

第32回企画展示「戦争と女学生」解説動画1「女性教育の拡充と学校生活」

第32回企画展示「戦争と女学生」解説動画2「学校生活にしのびよる戦争」

また、過去に制作した戦争証言映像の中から、第32回企画展示で紹介した方の映像を再編集した下記の動画2本もYouTubeに掲載した。

第32回企画展示関連 戦争証言映像1「青春の思い出 軍事郵便」

第32回企画展示関連 戦争証言映像2「少女たちの目にうつる戦争」

③『令和3年度滋賀県平和祈念館企画展示実施報告書』の作成

今年度から、過年度の企画展示の内容を紹介する実施報告書を作成することとし、令和3年度に実施した第28回企画展示『戦争が終わってー海外からの復員と引揚げー』、第29回企画展示『戦死者8,843名 フィリピンの戦場 I ールソン島編ー』、第30回企画展示『子どもたちが描いた戦争』の展示資料や展示パネルの内容を取りまとめた報告書を300冊印刷して、公立図書館等に配布した。

(4) エントランスバナー

①『八日市の街並み』

会期 令和4年(2022年)3月30日(水)～令和5年(2023年)3月5日(日)

会場 滋賀県平和祈念館エントランス

趣旨

太郎坊宮から八日市の街と陸軍八日市飛行場跡付近を見渡した昭和30年頃の写真を中心に置き、八日市飛行場のスナップ写真を両脇に配置して、かつての八日市飛行場と八日市の街を紹介するタペストリーをエントランスに展示した。令和4年に八日市飛行場開設から100周年を迎えることから、平成28年度に第5回特別企画展示として展示したエントランスバナーを再度展示したものである。



エントランスバナー
「八日市の街並み」

②『家族の肖像』

会期 令和5年(2023年)3月8日(水)～令和5年度に継続

会場 滋賀県平和祈念館エントランス

趣旨

戦争に巻き込まれた家族の写真をタペストリーに構成し、エントランスに展示した(平成29年度に第6回特別企画展示として展示したものを再度展示)。

タペストリーには、満洲で八路軍に留用された元航空兵で、現地で晴子さんと結

婚し、昭和 29 年に 2 人のお子さんと帰国された河内健吾さん。出征した 4 人の兄のうち、かわいがってくれた長男の宗男さんと次男の一重さんを戦争で亡くされた奥島すみ子さん。幼い娘を残して出征した夫の益治郎さんに、最後の面会でも娘を連れて行けず、戦地へ送った写真も届かないまま戦死されたことを悔やむ勝見一恵さんなど、過酷な運命を潜り抜けた 10 家族の肖像を掲載した。

(5) 地域交流室展示

①「10 年間ふるさとなみえ博物館」巡回展－福島県浪江町と滋賀県との交流－

会期 令和 4 年（2022 年）3 月 10 日（木）～4 月 10 日（日）

事業概要

東日本大震災とその後の東京電力福島第一原子力発電所の事故によって故郷を離れた福島県浪江町の児童らが取組んだ郷土学習の成果物と、浪江町と交流のあった米原市近江公民館の取組と防災のパネルを展示した。

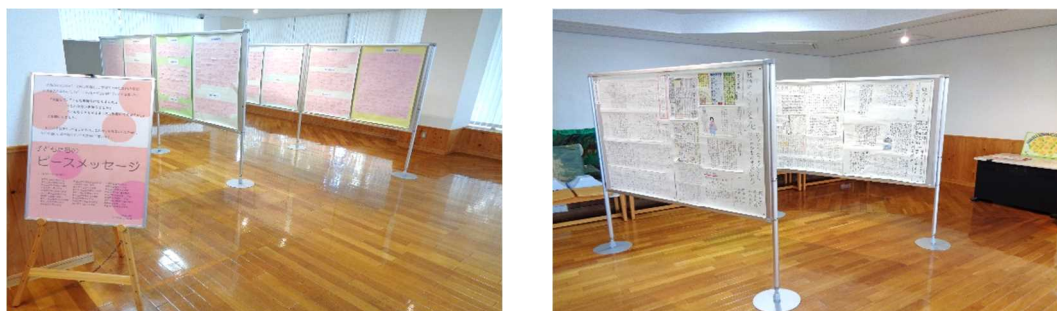


②「県内小中学校平和学習 子どもたちの足跡展」

会期 令和 4 年（2022 年）4 月 13 日（水）～6 月 26 日（日）

事業概要

各校で行われた平和学習の成果物（模造紙にまとめたものや新聞、ポスターなど）を展示した。また、令和 3 年 9 月から 12 月に来館した学校の児童生徒に書いてもらったピースメッセージ（28 校、1,115 枚）を展示した。



③「ヒロシマ・ナガサキ ミニミニ原爆展」

会期 令和 4 年（2022 年）6 月 29 日（水）～12 月 18 日（日）

事業概要

長崎原爆資料館から、「ミニミニ原爆展」開催用のデータを借用して、原爆被害の概要及び広島・長崎の被災資料写真、被爆後の惨状写真、被爆者の写真など

20点を展示した。



④「県内小中学校平和学習 子どもたちの足跡展」

会期 令和5年(2023年)1月5日(木)～3月26日(日)

事業概要

各校で行われた平和学習の成果物(模造紙にまとめたものや新聞、ポスターなど)を展示した。また、令和4年9月から12月に来館した学校の児童生徒に書いてもらったピースメッセージ(27校、1,030枚)を展示した。



(6) 収蔵品展示

収蔵品展示は、県民の皆さまからの寄贈資料をもとに、毎回テーマを設けて展示するコーナーである。

「旧陸軍八日市飛行場 100年」

民間の飛行場を前身とする八日市飛行場は、大正11年(1922年)1月11日に陸軍八日市飛行場として誕生した。収蔵展示では、八日市飛行場とともに歩んだ周辺の方々から寄贈いただいたモノ資料を紹介した。

展示期間 令和4年(2022年)1月12日(水)～令和5年(2023年)3月26日(日)

(2階展示の一部は令和5年度も継続)

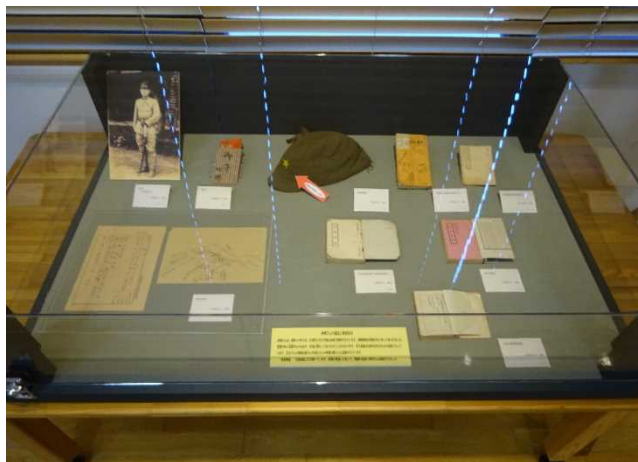
「最近の寄贈品(令和4年度)」

令和4年度には、50名の方から戦争に関する資料の寄贈を受けた。その中から整理作業が終了した特徴的な資料を選んで紹介した。

時代の流れとともに、使われていたご本人からの寄贈はほとんどなくなった。また、戦争を体験された方々の話も聞くことが少なくなってきた。身近におられた体験者、関連のものもなくなってきている。最近、古い家を壊され、いろいろなもの

の整理をされるのに、ご親族の思い出がある品々を「無下に処分するのよ」との思
いと、今一度ご親族の歩みを顧みられ、当館に寄贈をいただいた。展示を通して、
身近なものに目を向け、過去の戦争を振り返っていただいた。

展示期間 令和5年（2023年）3月29日（水）～令和5年度に継続



（7）図書・映像コーナー

来館者自らがより深く、滋賀県民の戦争体験や平和の尊さについて学ぶため、戦争に関する概説書・児童書、絵本、コミックなどの図書資料を閲覧に供した。

なお、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため令和3年度から閲覧を休止していた図書コーナーは、第31回企画展示の開幕に合わせて令和4年6月18日から閲覧を再開したが、映像コーナーは引き続いて運用を停止中である。

（8）他館（市町）との連携展示

守山市

タイトル：『平和のよろこび展』

主催 守山市

会期 令和4年(2022年)8月3日(水)～8月10日(水)

会場 守山市民ホール1階

見学者数 292人

内容

守山市からの協力依頼を受け、当館が企画した第30回企画展示「子どもたちが描いた戦争」の一部を守山市民ホールで守山市主催の『平和のよろこび展』で展示した。

(9) その他の展示

県庁・県立図書館でのパネル展示

滋賀県平和祈念館で開催した企画展示の内容をコンパクトにまとめたパネル展示を県庁新館・本館の3階渡り廊下展示スペース・本館1階県民サロンや県立図書館談話室において開催した。

①パネル展示「子どもたちが描いた戦争」

会 期	会 場
令和4年7月1日(金)～7月15日(金)	県庁3階渡り廊下
令和4年7月19日(火)～7月29日(金)	県庁1階県民サロン
令和4年11月2日(水)～11月20日(日)	県立図書館談話室

②パネル展示「戦死者8,843名 フィリピンの戦場Ⅱ

ーレイテ島・ミンダナオ島などの島々ー

会 期	会 場
令和5年1月13日(金)～1月31日(火)	県庁3階渡り廊下
令和5年2月22日(水)～3月12日(日)	県立図書館談話室



パネル展示「戦死者8,843名 フィリピンの戦場Ⅱ ーレイテ島・ミンダナオ島などの島々」(県立図書館談話室)

2 資料収集保存事業

(1) 戦争体験聞き取り調査

滋賀県平和祈念館では、戦争当時滋賀県にお住まいだった方、あるいは滋賀県にご縁のあった方を対象に、調査員2名を配置して戦時中の体験について聞き取り調査を行っている。聞き取り調査は、開館以前の平成5年度から継続して実施しており、資料寄贈のみの場合も含めて2,300人以上の協力を得ている。

体験者の高齢化が進む中、戦闘体験などの第一線での体験談を聞き取る機会が少なくなり、国民学校や銃後と言われた国内での体験が増える傾向にある。

令和4年度の調査件数は65件あり、その内4名の方から直接的な体験談の聞き取りを行った。

16歳で志願して海軍の予科練習生に

～滋賀海軍航空隊時代の体験談～

倉内 昭夫さん（愛知県豊橋市）

倉内昭夫さんの兄の戦死公報が、昭和19年（1944年）に届く。豊橋中学校在学中であったが志願し、海軍の甲種飛行予科練習生として大津の滋賀海軍航空隊に入った。終戦近くになると飛行場の造営、河川工事等に駆り出された。

16歳かな。私、一番若かったからね。で、一番上のやつは20歳でしたね。16歳かな。15だったか16だったかな。とにかくそれだけ、4つぐらい幅あったな。中学校で言うと4級ぐらい上の方が同期でしたね。

ほんで、私は小さかったしね。それで、それよりよ、3つ4つ上の人と一緒にやらなならんもんで。まあ1年ほど。子どもだもんね、まだ。

予科練ちゅうのは、半分勉強で、半分訓練ですね。教練もそやな。練兵場で訓練。そんなようなあれでしたね、半分は学科の勉強でしたね。

戦局が、まあ負け戦になったからいうんで、最後の2カ月、6月7月は作業ばかりでしたね。訓練、軍のほうには、敗れるちゅうこと分かつたのかね。もう訓練もそんなしなかったな。

（その頃は）飛行機の滑走路を造ったよ。多賀神社ってあるだ。お多賀さんの、そうだな、500メートルぐらい離れたところかな。滑走路造ってましたよ。自分らで「わしら予科練入ったけど、土科練だな」ちって。

（終戦）私らでも、ああ、帰れるなと思ったもんね。それでまあ、お互いに志願して入った人なもんで、心ん中じゃ、「ああ、これはうちに帰れるな」と喜んでやつもおるかもしれんけど、やっぱり表面には、残念がとつたね、みんな。分からんよ。心の中はね。中学生からの人が多いけど、今の中学生よりは何だか大人だったような気がするけどね。

(2) 収蔵資料の整理・保存

滋賀県平和祈念館では、県民の戦争体験にまつわる資料や戦時の滋賀県に関連する資料 50,000 点以上を所蔵し、その整理、保管を行っている。令和 4 年度は、新たに 2,146 点の資料を収集した。収集した資料のほとんどは、県民の皆様が所蔵しておられたものである。

近年では、戦争体験者の子・孫世代の方々からのご寄贈が増えた。戦時中のことや寄贈品をよく知る方は減ってきているが、祖父母の戦争体験を語っていただく方もおられることから、ご家族で大切に継いできたことが寄贈品を通してわかる。

これまで県民の皆様が継いできた品々を後世に伝えていくために、適切な保存と収蔵に務める。また、戦争体験証言や館蔵資料のデジタルアーカイブ化を進め、展示や平和学習とともにインターネット上でも学習できる環境づくりを進めている。

～令和 4 年度受け入れ資料の事例～

婦人会の文書綴

百済寺町の婦人会で、昭和 14 年 2 月から昭和 31 年 3 月までの文書が綴られていた。戦中戦後の婦人活動の変遷がわかる貴重な資料である。戦時中は裏紙を使用し、戦後は新しい紙だが、紙質が良くない。

個人 提供



身に付けていたもの

祖父の田中正次さんの認識票とお守り。

田中孝明さん提供



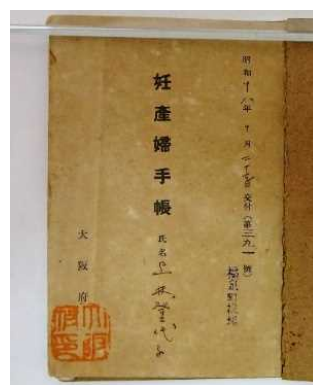
妊産婦手帳

戦時下に上林登志子さんが千鶴さん（①）を、田中キミエさんが豊子さん（②）を出産されたときのものである。

上林千鶴さん・上田さん提供



①



②

3 普及啓発事業

(1) 開館11周年記念事業

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、日数を増やし、分散して行った。

開催日時 令和5年(2023年)3月21日(火)～3月26日(日)

事業概要

①大人のための歴史教室

当館館長 朝倉敏夫による「食から日韓の近現代史を考える」と題して、「サハリンのキムチ」、「植民地期の『味の素』」の講演があった。(参加人数50名)

②ボランティアグループによる活動

演劇:3月26日(日)10時 紙芝居・朗読・合唱(参加人数65名)

戦時食:開館11周年記念品(ミニ大飴)を作製し、来館者に配布した。

③映画再上映会

8月から3月に上映した作品の再上映会を行った。(参加人数延べ約110名)

(2) 平和を祈念する日事業

開催期間 令和4年(2022年)8月13日(土)～8月16日(火)

期間中来館者 約1,000名

事業概要

8月13日から8月16日の期間、「平和を祈念する日事業 平和祈念 week2022 戦後77年 未来へとつづく平和の燈」として、平和学習講座、児童合唱団やボランティアグループ発表会、映画上映会を開催した。

4日間を通して、日替わりで当館作成の戦争証言映像(戦争証言2014～2020)を1階基本展示横スクリーンにて上映し、2階研修室では映画上映会を行った。

13日から15日は再上映会、16日には新作映画として戦中最後の沖縄県知事、島田叡を描いた「生きる」を上映し、大きな反響があった。

平和学習講座は、昨年度退任された当館の初代館長 端信行氏から、当館の10年を回顧しながらご自身の歴史や研究について語っていただいた。また、ボランティアグループ発表会は演劇の他、昨年度に引き続き手紙等解読グループの発表があった。特攻兵士とその家族の交わした手紙から当時の様子や心情がわかる発表であった。

終戦の日の15日には正午から黙祷を行い、館長から平和祈念メッセージが読み上げられた。その後、八日市児童合唱スマッシュによるコンサートが行われ、子どもたちの歌声が館内に響いた。また、期間中には平和学習を行った小学生が平和への願いを込めて作ったあんどんを1階ロビーに並べ、ライトアップした。

平和を祈念する日事業のご案内 滋賀県平和祈念館

入館 無料

平和祈念week 2022

戦後77年
未来へとつづく平和の燈

期間 8月13日(土) ▶ 16日(火)

会場 滋賀県平和祈念館

〒527-0157 東近江市下中野町431番地
TEL: 0749-46-0300
FAX: 0749-46-0350
Mail: heiba@pref.shiga.lg.jp

詳しい内容は裏面をご覧ください

期間中の催し案内

映画上映会 8月16日(火) 13:30~	館長平和メッセージ 8月15日(月) 12:00~
映画上映会 8月13日(土) 10:00~	平和学習講座 8月15日(月) 13:30~ 講師: 端 信行 氏 (滋賀県平和祈念館 初代館長) 「平和祈念館—過去・現在・未来—」 祈念館の10年を回顧し、館長や研究者として歩んだ自身の歴史を語ります。
映画上映会 8月14日(日) 10:00~	ボランティアグループ発表会 8月16日(火) 10:00~ 手紙等解読「特攻兵と遺族の想い」 昭和20年、神風特攻隊員として戦死された榎本守さん。家族からの手紙を通して、想いを寄せ合う姿をご紹介します。御期待下さい。
映画上映会 8月14日(日) 13:30~	演劇「君思う心 胸に抱いて」 八日市飛行場で出会った男女の恋劇を伝えます。グループ劇、心一つに精一杯演じてさせていただきます。
映画上映会 8月15日(月) 10:00~	八日市児童合唱「スマッシュ」ミニコンサート 8月15日(月) 12:20~
映画上映会 8月15日(月) 10:00~	上記のイベントは、事前予約制です 新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、定員以上の参加はできません。 定員を超えた場合は、抽選による参加となります。 ◎当日はマスクの着用をお願いします。 ◎お名前、ご住所、連絡先電話番号をお知らせください。 ◎当日はマスクの着用をお願いします。 ◎当日、マスクの着用をお願いします。 ◎当日、マスクの着用をお願いします。 ◎当日、マスクの着用をお願いします。 ◎当日、マスクの着用をお願いします。

7月13日(水)
9:00より
予約受付開始
0749-46-0300

イベントチラシ



手紙等解読ボランティアグループによる発表



八日市児童合唱「スマッシュ」

(3) フィールドワーク(「大津の戦争遺跡をめぐる」現地見学会)

開催日時: 令和4年(2022年)11月5日(土) 9時00分~11時30分

会場: 円城寺、大津市歴史博物館、
大津市役所周辺

事業概要

公益財団法人滋賀県文化財保護協会調査課課長補佐 辻川 哲朗氏を講師に招き、現地見学会を開催した。(参加者数12名)



(4) 映画上映会

今年度も毎月1回、定員40名で、13時30分から研修室で実施した。

4月24日(日)	映画「グリーンブック」	参加者41名
5月22日(日)	映画「ソローキンの見た桜」	参加者39名
6月27日(日)	映画「北緯15°のデュオ」	参加者40名
7月25日(日)	映画「アンネ・フランクを忘れない」	参加者38名
8月22日(日)	映画「千羽づる」	参加者38名
9月26日(日)	映画「サラの鍵」	参加者36名
10月23日(日)	映画「第三の男」	参加者41名
11月27日(日)	映画「蟹工船」	参加者39名
12月18日(日)	映画「国際市場で逢いましょう」	参加者38名
1月29日(日)	映画「ミツバチのささやき」	参加者31名
2月26日(日)	映画「太陽の蓋」	参加者40名
3月19日(日)	映画「みかんの丘」	参加者35名

事業概要

前年度と同じ定員40名で開催し、大きな混乱はなかった。受付初日に定員が満たされる月もあり、人気の高さが伺えた。再上映会も前年と同様、平日開催を止め、8月と3月のイベント時にまとめて行うこととした。なお、今までの映画選定の基準であった「戦争や平和」というテーマに「人権」を加えた。戦争や平和だけでは作品の選定が難しくなってきたためである。4月作品は人種差別、2月作品は東日本大震災の映画である。

(5) 平和の学校あかり

開催日 令和4年(2022年)7月23日(土)・7月30日(土)・8月6日(土)
~~・8月9日(火)・8月20日(土)~~ 計4講座



募集案内

会員数 34名 延べ参加者 53名

事業内容

①「戦跡めぐり in 湖北」(7月23日(土))

長浜市・米原市に残る戦争遺跡を見学した。米原市に残る岩脇列車壕では、地元の

町づくり委員会の方にお話をさせていただきました。



講座の様子

②「平和学習講座【ミニバックヤードツアー、缶バッジづくりなど】」（7月30日（土））

館内見学やバックヤードツアーをした後、ワークシートに取り組みながら館内の展示見学をした。最後にオリジナル缶バッジづくりも実施した。



講座の様子

③「教えて戦争体験Ⅰ【戦時の国民学校】」（8月6日（土））

戦時中、国民学校に通っておられた豊原隆夫さんに、当時のくらしや学校の様子についてお話ししていただいた。最後には、質疑応答の時間も設けた。



講座の様子

④「教えて戦争体験Ⅱ【長崎に落とされた原爆】」（8月9日（火））

講師の大村信代さんが体調不良のため、開催を中止した。

⑤「アニメで学ぶ戦争【ガラスのうさぎ】」(8月20日(土))

アニメ映画「ガラスのうさぎ」の視聴を通して、戦争と平和について考えた。



(6) 平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール

展示期間

令和4年(2022年)10月29日(土)～令和5年(2023年)1月29日(日)

表彰式

令和4年(2022年)10月29日(土)

事業概要

次世代を担う子ども達が、戦争と平和をテーマにした絵を描くことにより、戦争の悲惨さや平和の尊さを考えるきっかけとするとともに、子ども達が描く絵画を通して、広く県民に平和への想いを伝えることを目的として実施した。今回、県内の小学校4年生から中学生を対象に作品を募集したところ、県内小・中学校41校から468作品の応募があった(前年度は24校から566作品)。

なお、今年度から滋賀県知事賞となり、小中学校別に3部門6作品を選定した。

また、参加者全員に昨年度同様、参加賞(クリアファイル)を贈った。

【入賞者】

滋賀県知事賞	学校名	学年	氏名
ピース部門(小学校)	東近江市立蒲生北小学校	第5学年	太田 優
ピース部門(中学校)	近江八幡市立安土中学校	第1学年	山田 真帆
ハート部門(小学校)	甲賀市立大野小学校	第6学年	山本 涼介
ハート部門(中学校)	多賀町立多賀中学校	第2学年	横山 春音
オリーブ部門(小学校)	彦根市立城南小学校	第6学年	松 環奈
オリーブ部門(中学校)	立命館守山中学校	第1学年	吉澤 小夏

※各部門について

ピース部門・・・平和祈念館の理念と合致していることや祈念館の事業を推進するうえで効果的な作品

ハート部門・・・制作者の平和への思いを画面に意欲的に工夫し、効果的に表現している作品

オリーブ部門・・・平和への思いを自分らしい発想や構想で表現し、線画や色使いの技能に優れた作品

ピース賞	作品	選定理由
------	----	------

(小学校)

蒲生北小
太田 優



「生きる」という明快な言葉に、平和という願いが込められている。

平和祈念館に来られた方に「生きる」とは何かを考えさせてくれる。

(中学校)

安土中
山田 真帆



日本では平和が「当たり前」のように思われている。では、その「当たり前」とは、どういうことなのだろうか。

平和とは何かを考える場としての滋賀県平和祈念館の理念を提示している。

ハート賞	作品	選定理由
------	----	------

(小学校)

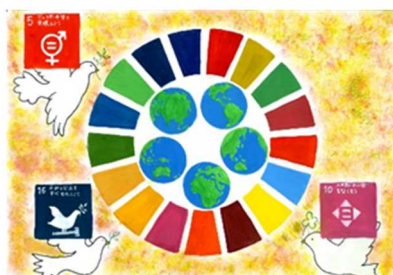
大野小
山本 涼介



平和をイメージする木「オリーブ」を中心に、オリーブの実それぞれが世界の国を表すように描いています。空と大地が続いていくようなグラデーションにも「世界が一つ」というメッセージが伝わってくるような表現がすばらしいと思いました。

(中学校)

多賀中
横山 春音



「SDGsで平和を実現しよう」という自分の思いを表すためにSDGs タイルや17色の配置などを考え、余白を残したり塗り方を変えたりして、表現方法を工夫しようとしているところが、素晴らしいと思いました。

オリーブ賞	作品	選定理由
-------	----	------

(小学校)

城南小
松 環奈



背景部分のスポンジでかすれを利用したグラデーション、国旗部分の線画を描かず色彩で塗り分ける作業の丁寧さとともに、全体の構成としても、重なりや隣りあわせになる色がしっかり計画的に考えられています。

(中学校)

立命館守山中
吉澤 小夏



大胆な目をひく構成でありつつ、浅めのトーンで色をそろえていることで、全体のまとまり感があります。浅めのトーンといっても、その中での濃淡やちょっとした差し色、ハイライト、全体としてのバランスなど、よく考えた色づかいとなっています。

【佳作】

小学校	日野町立必佐小学校	5年	藤沢	諺
	守山市立物部小学校	6年	菅原	一華
	米原市立山東小学校	6年	高森	美海
中学校	守山市立守山北中学校	3年	森	みゆ
	近江八幡市立安土中学校	1年	澤田	樹里
	東近江市立湖東中学校	2年	山口	心晴



小学生作品の展示 (ガイダンス室)

(7) 平和塾・つなぎ人（びと）

開催日時 毎月第2土曜日 14時から15時30分まで

参加者数 延べ40名（年間9回）

事業概要

戦争体験者の方々の高齢化がすすむ中、つなぎ人（語り部）の育成は開館当初から当館の重要な役割と位置づけられており、「平和塾・つなぎ人（びと）」として、4月と8月を除き、毎月1回開催している。

4 平和学習支援事業

(1) 来館学習

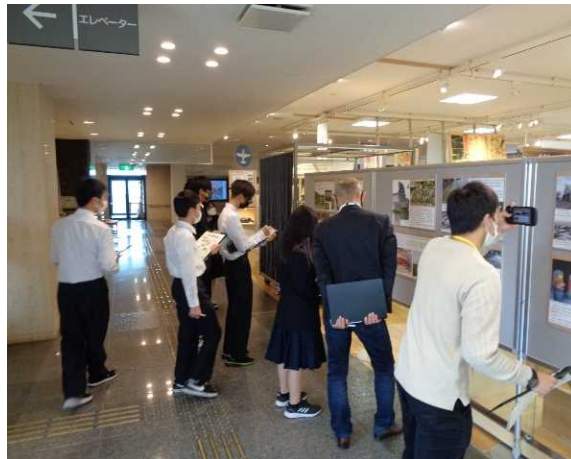
来館学校数（実績）

※カッコ内は前年度の実績

	総数	小学校	中学校	高等学校	大学・短大
学校数	82 校 (83 校)	65 校 (70 校)	14 校 (9 校)	2 校 (3 校)	1 校 (1 校)
児童・生徒数	4,395 人 (4,668 人)	3,515 人 (3,843 人)	819 人 (763 人)	35 人 (41 人)	26 人 (21 人)

主な学習方法

- ・ 展示見学
学校が作成するワークシートや当館職員が作成した見学シートを用いて調べ学習
- ・ 館職員による平和学習（戦争証言映像視聴を含む）
- ・ 平和の燈前にての平和セレモニーや平和集会



来館学習（展示見学・平和学習）の様子と寄贈された折鶴など

(2) 出前授業

出前授業実施校 (実績)

※カッコ内は前年度の実績

	総数	小学校	中学校	高等学校	大学・短大
学校数	122 校 (115 校)	82 校 (76 校)	28 校 (32 校)	10 校 (5 校)	2 校 (2 校)
児童・生徒数	10,614 人 (9,078 人)	5,883 人 (5,475 人)	2,137 人 (2,555 人)	2,339 人 (898 人)	255 人 (150 人)

主な学習方法

- ・実物や写真・動画の提示
- ・体験談の提示
- ・館職員による平和学習（戦争証言映像視聴を含む）



出前授業での様子（県内小学校にて）

(3) 地域への平和学習支援・教職員等への研修

戦後 77 年が経ち、戦争や平和に関する意識は若干低くなっているように感じる。

しかし、令和 4 年 2 月に始まったロシアによるウクライナ侵攻によって連日報道される映像などから、77 年前を思い出す機会は県民の中で増えてきている。コロナ禍も次第に収まったことで、人権講座や平和学習は少しずつではあるが増加してきた。地域や自治会での講座、教職員をはじめ各種団体からの要望に応じた研修として、学校や地域への出前講演を実施した。特に守山市や近江八幡市から多数の依頼を受け、コミセンや公民館等で人権講座を実施でき、好評を得た。

なお、パネル等の貸し出しは 43 件であった。

区分	実施件数 (人数) ※【 】内は前年度
来館学習	41 件 (1,026 人) 【13 件 (290 人)】
出前講座	27 件 (1,173 人) 【20 件 (581 人)】
教職員研修	5 件 (172 人) 【8 件 (196 人)】

主な内容

- ・「滋賀への空襲」
- ・「滋賀県各地にまつわる戦争の記録」
- ・「戦争と滋賀」
- ・地域に関する証言映像の視聴



出前講演の様子

(4) 資料の貸出による平和学習支援

滋賀県平和祈念館では、学校や地域への平和学習を支援するために、実際に手にとって触れるハンズオン資料やパネル、戦争体験者証言映像の貸出を行っている。

学校への貸出の傾向としては、9月から11月に視聴覚資料の貸出が多い。地域への貸出としては、夏期が多く、パネルの貸出数が多かった。

令和4年度は、新たに「滋賀に残る戦争遺跡 ー湖北・湖西編ー」、「戦争体験者証言映像 2022」を製作し、令和5年度から貸出を始めた。

資料貸出しの実績

- ①学校への貸出 19校（小学校15校、中学校2校、高等学校2校）
- ②地域への貸出 24件

貸出資料の種類

①ハンズオン資料

千人針、臨時召集令状（複製）、出征たすき、防空頭巾、配給切符、慰問袋、鉄かぶと、ゲートル、国防婦人会たすき、いなご採り袋、雑誌「週刊少国民」（ラミネート版）、カルタ「戦ふ日本カルタ」（ラミネート版）、双六「大東亜共栄圏めぐり」（ラミネート版）

②パネル

Aセット（16枚組） 3セット

Bセット（20枚組） 3セット

Cセット【滋賀で学ぶ戦争の記録】（16枚組） 3セット

写真・ポスター類（64枚）

③小学校国語科読み物教材「一つの花」対応セット

④視聴覚資料

- ・滋賀県民の戦争体験証言ビデオ「記憶の湖（うみ）17本」
- ・小中学校向けアニメ画入りの戦争体験証言映像
「大阪から来た女の子」「滋賀県満州報国農場の若者たち」
- ・2014、2015、2016、2017、2018、2019、2020年度制作の戦争体験者証言映像
(DVD版・BD版)
- ・その他、戦争や平和に関するビデオ・DVD

(5) 戦争体験者証言映像の制作

戦争体験者の体験談を記録・保存するとともに、広く県民が戦争の悲惨さや平和の大切さを学ぶための映像教材として、戦争体験者証言映像の制作を企画し、委託事業によって制作した。平成26年度から事業を開始し、今回は8作目である（令和3年度は新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮して、制作を行わなかった）。

6名の体験者に協力いただき、以下の映像1から6の6本の映像を制作して『戦争証言2022』としてまとめた。この映像は希望者に対してDVD、Blue-rayの貸出を行うほか、当館ホームページを通じてインターネット上でも閲覧可能としている。

『戦争体験者証言映像 戦争証言2022』DVD・Blue-ray

- ・映像1「親子で召集された戦争」 山本徳治郎さん（12分）
- ・映像2「海軍工廠での空襲体験」 鶴房 正三さん（13分）
- ・映像3「学徒動員の記憶」 大音 忠行さん（13分）
- ・映像4「湖東の子が見た戦争」 坪田末治郎さん（13分）
- ・映像5「お寺の子が見た戦争」 東郷 正文さん（13分）
- ・映像6「家族を失った空襲」 吉田 武司さん（13分）

(6) 滋賀に残る戦争遺跡映像の制作

出前授業や来館学習では、実物資料に触れながら平和学習することができる一方で、現在も残る滋賀県内の戦争遺跡を実際に見学する機会はほとんどない。そこで、当館や学校では学習できないバーチャル体験学習として、「滋賀に残る戦争遺跡 ー湖北・湖西編ー（DVD）」を作成した。

滋賀県平和祈念館作成「滋賀県戦争遺跡分布調査報告書」をもとに、現在も県内に残る戦争遺跡を撮影し、戦時の写真と対比したり、わかりやすく解説を入れたりして、戦争遺跡を紹介する。

今年度はその第一次（全三次）として、湖北・湖西編（長浜市・米原市・高島市）を作成した。軍事施設、暮らし、避難・監視施設、空襲と4つのテーマに分けて編集し、時間は全体で約20分程度になっている。

※本業務は、国の「デジタル田園都市国家構想推進交付金」等を利用して制作した。

5 ボランティア活動支援事業

当館では、開館に先立って平成 23 年度より当館の活動に参加いただけるボランティアの募集を開始した。令和 4 年度末時点のボランティア登録者数は 51 名で、20 代から 80 代の幅広い世代の方に登録いただいている。

具体的な活動内容としては、来館者案内活動、戦時食体験活動、手紙等解読活動、紙芝居や寸劇を上演する演劇活動、情報紙「平和の灯」を制作する活動、『写真週報』を読み解く活動などが行われている。また、開館周年記念事業などの館事業への協力も継続して行われている。

ボランティアの様々な経験に基づいた知識や技術、さらにはその主体的な活動を通して、当館の活動の幅は確実に広がり、多様なものとなっている。今後ともボランティア活動を通して、利用者と積極的に交流していただき、さらには『利用者と館をつなぐかけ橋』の役割を担っていただくことを期待する。また、平和祈念館ではそのためのサポートを続けていく。

ボランティア活動の紹介

来館者案内活動グループ	館内での来館者との交流や案内をします。
戦時食グループ	食べるものがなかった戦争末期から戦後の生活苦を感じ、「食」の大切さについて考えます。
演劇紙芝居グループ	平和や戦争をテーマにした紙芝居・人形劇・寸劇を創作し、上演する活動をします。
手紙等解読グループ	戦争中の手紙や日記などを、読みやすいように解読する作業をします。
聞き取りグループ	戦争体験者の方からお話を聞き、記録する活動をします。
情報紙制作活動グループ (現・PR活動グループ)	情報紙「平和の灯」を制作します。
大凧づくりグループ	東近江大凧まつりに向けて、ミニ大凧(2畳)をつくり、平和への願いや当館の活動をPRします。
館イベント補助グループ	館が行うイベントの補助を行う活動をします。
語り部・語り継ぎ部グループ	自らの体験や戦争体験者の方々から聞いた話をもとに、戦争体験を語り継いでいく活動をします。
『写真週報』読み解きグループ	戦時中に発行されていた『写真週報』を読み解く活動をします。

6 DX（デジタルトランスフォーメーション）推進事業

（1）ホームページリニューアル

当館では、これまで平成12年に開設したホームページに修正を加えながら、使用してきたが、コンテンツの迅速な更新や新規追加が難しく、ウェブを活用した事業展開を行っていく上で大きな障害となっていた。

今年度、県民の皆さまにわかりやすく、関心をもっていただけるようなホームページにリニューアルした。滋賀県の公式ホームページのサブサイトとすることで多言語翻訳が可能となり、また、スマートフォンやタブレットからの閲覧にも対応できるようになった。誰もが見やすく、見つけやすくすることで、今後は多くの人々に情報発信を行っていく。

※本業務は、国の「デジタル田園都市国家構想推進交付金」等を利用して制作した。

（2）データベースの公開

今年度より、いつでも、どこでも、だれでも当館の収集した戦争体験談や収蔵資料を調べることができる「バーチャル語り部・収蔵資料データベース」を開設した。過去の企画展示で紹介した体験談と収蔵資料、図解等が検索、閲覧できる。令和5年度以降も継続してデータベースの公開作業を続ける。

「滋賀県平和祈念館 バーチャル語り部・収蔵資料データベース」

URL:<https://jmapps.ne.jp/sgheiwa/>

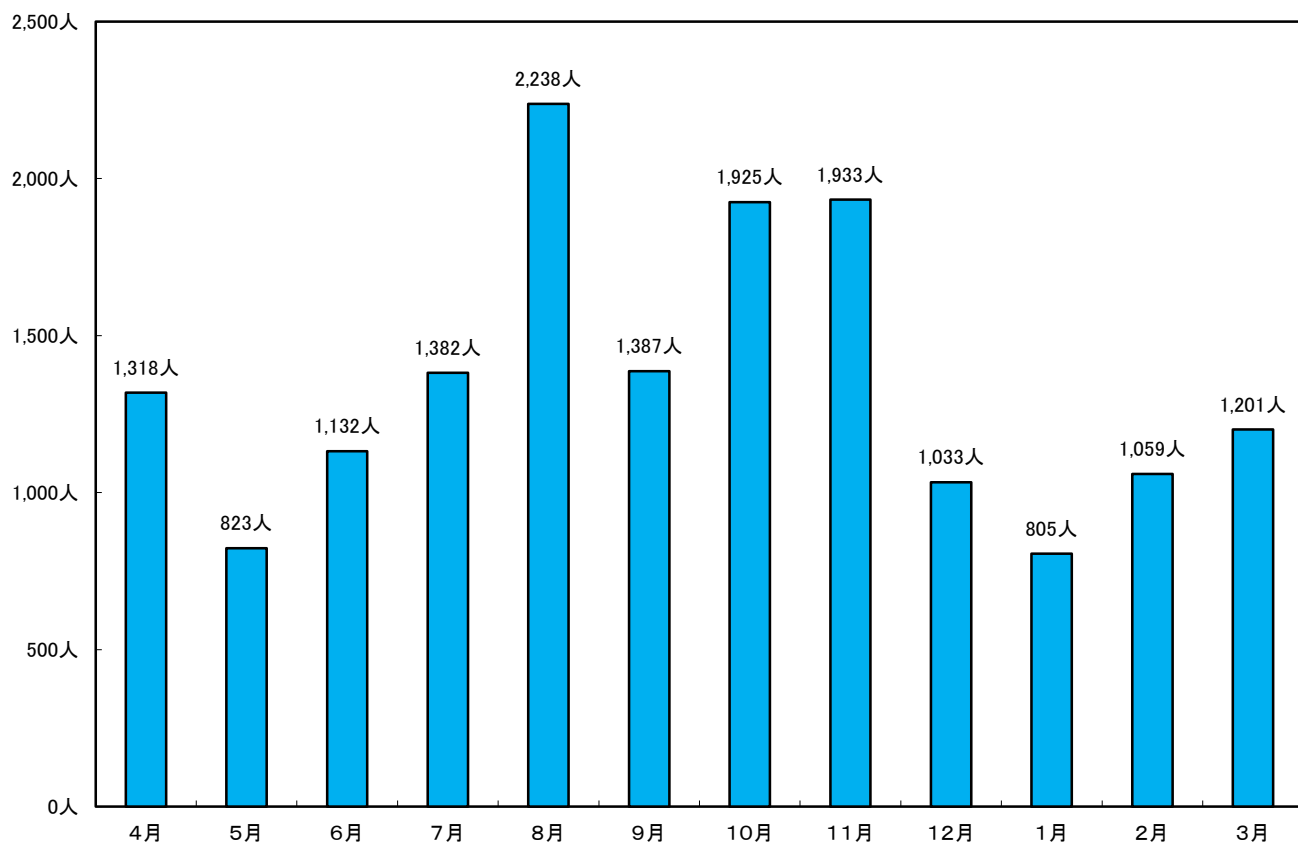


Ⅱ 資料

1 利用状況

(1) 月別来館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	開館からの累計
開館日数	22日	22日	19日	26日	29日	29日	23日	21日	14日	17日	20日	24日	266日	2,841日
来館者数	1,318人	823人	1,132人	1,382人	2,238人	1,387人	1,925人	1,933人	1,033人	805人	1,059人	1,201人	16,236人	230,489人
1日あたりの平均来館者数	60人	37人	60人	53人	77人	48人	84人	92人	74人	47人	53人	50人	61人	81人



(2) 来館学習・出前授業実施校

来館

(単位:人)

年	月	日	学校名	人数
令和4	4	21	立命館守山中学校	210
		22	比叡山中学校	80
		28	水口東中学校	80
	5	20	三雲養護学校石部分教室	28
	6	2	菩提寺小学校	90
		2	下市小学校	24
		9	市原小学校・山上小学校	46
		10	玉川小学校	103
		10	豊郷小学校	57
		23	八日市南小学校	98
		24	愛東北小学校・愛東南小学校	31
	7	4	愛東中学校	25
		7	愛東中学校	37
	9	12	御浜中学校	54
		21	坂田小学校	87
		22	桜谷小学校	17
		26	竜王小学校	65
		27	青山小学校	170
		29	浮孔西小学校	63
	10	5	曾爾中学校	7
		7	布引小学校	41
		7	比叡山中学校	90
		12	御園小学校	75
		13	大淀桜ヶ丘小学校	55
		14	片塩小学校	60
		18	安倍小学校	60
		19	大淀希望ヶ丘小学校	45
		20	香久山小学校	31
		20	名柄小学校	12
		21	竜王西小学校	51
		21	馬淵小学校	21
		26	五個荘小学校	103
		26	上牧第二小学校	55
		27	湖東第二小学校	24
		27	比叡平小学校	28
		28	日吉台小学校	21
		28	小野小学校	23
		28	織田小学校	28
		28	伊香立小学校	18
	30	三輪小学校	26	
	31	上田上小学校	22	
	11	4	箕作小学校	87
		4	雄琴小学校	76
		5	山東小学校	23
		7	愛東中学校	25
		9	田上小学校	70
		9	真野小学校	86
		10	逢坂小学校	80
		11	愛東北小学校・愛東南小学校	31
		11	河南中学校	30
		11	湖東第三小学校	22
		11	伊吹山中学校	37
		16	田上中学校	65
17		金田小学校	160	
24		武佐小学校	32	

年	月	日	学校名	人数		
令和4	11	24	志都美小学校	63		
		25	蒲生北小学校	65		
		25	今津北小学校	24		
		28	下田小学校	46		
		30	能登川西小学校	35		
	12	1	蒲生東小学校	26		
		2	能登川南小学校	91		
		7	葉山東小学校	85		
		8	唐崎小学校	146		
		9	山上小学校	32		
		9	市原小学校	14		
		15	びわ北小学校	23		
		令和5	1	13	農業大学校	26
				16	秦荘東小学校	63
18	蒲生西小学校			68		
19	八日市北小学校			79		
20	能登川北小学校			14		
2	1		玉緒小学校	28		
	3		八日市西小学校	42		
	8		水戸小学校	61		
	15		岩根小学校	37		
	16		高島小学校	56		
	17		湖東第一小学校	24		
	24		能登川東小学校	76		
3	4		甲賀中学校	18		
	15	能登香島中学校	61			
	22	鳥居本養護学校高等部	7			
82校				4,395 人		

出前

(単位:人)

年	月	日	学校・団体等の名前	人数
令和4	4	14	立命館守山中学校	210
		28	日枝中学校	98
	5	6	八日市高校	800
		11	滋賀大学	240
		13	朝宮小学校	5
		17	息長小学校	22
		23	玉園中学校	98
		24	老上中学校	70
		25	老上中学校	70
		26	老上中学校	70
		31	矢倉小学校	99
		6	1	南郷小学校
	3		永源寺中学校	29
	22		栗東高校	156
	7	1	治田東小学校	73
	8	22	龔話学校 小学部	10
	9	1	桐原小学校	96
		2	老上西小学校	124
		6	五個荘小学校	102
		7	葉山小学校	77
		8	草津第二小学校	89
		8	県立守山中学校	80
		14	蒲生東小学校	22
		15	晴嵐小学校	166
		20	本庄小学校	8
		20	新旭南小学校	59
		22	石山小学校	82
		26	華頂看護専門学校	15
		30	物部小学校	126
	18	伊吹山中学校	42	
	10	3	安曇小学校	71
		4	青柳小学校	27
		6	吉身小学校	114
		6	老上小学校	60
		7	立入が丘小学校	99
		7	老上小学校	60
		11	仰木の里東小学校	91
		11	仰木の里小学校	46
		13	八幡小学校	110
		14	志津南小学校	132
		17	小津小学校	67
		18	野洲小学校	140
		19	信楽高等学校	70
		24	北里小学校	63
		25	長等小学校	112
	25	稲枝東小学校	68	
	26	甲南高等学校・甲南高等養護学校	410	
	11	1	大宝小学校	140
		2	平野小学校	170
		4	河南中学校	30
		7	中央小学校	35
		8	田上中学校	65
		8	堅田小学校	140
9		守山北高等学校	140	
10		伴谷小学校	70	
14		マキノ西小学校	11	

出前

(単位:人)

年	月	日	学校・団体等の名前	人数
令和4	11	15	坂本小学校	86
		16	笠縫東小学校	78
		18	瀬田東小学校	164
		18	藤尾小学校	19
		21	瀬田小学校	239
		21	小原小学校	8
		22	常盤小学校	40
		22	菩提寺北小学校	47
		24	中洲小学校	17
		29	篠原小学校	35
		30	島小学校	25
		12	2	中主小学校
	6		城陽小学校	48
	6		葛川中学校	15
	12		瀬田南小学校	125
	13		山東小学校	23
	13		マキノ南小学校	6
	14		桐原東小学校	70
	令和5	1	11	鳥居本小学校
12			三雲小学校	80
13			長浜小学校	149
16			稲枝北小学校	23
16			愛知中学校	35
17			永原小学校	16
17			古保利小学校	11
17			愛知中学校	70
18			城北小学校	50
19			愛知中学校	70
19			日栄小学校	42
20			平田小学校	45
20			金城小学校	106
24			大宝東小学校	59
24			玉園中学校	36
24			希望ヶ丘小学校	81
25			米原小学校	73
26			玉園中学校	72
26			守山養護学校	10
30			小松小学校	39
30		和邇小学校	73	
31		雲井小学校	15	
31		稲枝西小学校	19	
2		1	甲西中学校	70
		2	富士見小学校	68
		2	甲西中学校	70
		3	山田小学校	73
		6	旭森小学校	154
		6	日枝中学校	35
		7	石部小学校	80
		7	日枝中学校	35
	8	日枝中学校	35	
	9	真野北小学校	42	
	9	豊日中学校	82	
	10	日野小学校	100	
	12	八日市高校リーダー研修会	85	
	13	祇王小学校	97	
13	彦根総合高校	23		
14	膳所小学校	115		

出前

(単位:人)

年	月	日	学校・団体等の名前	人数
令和5	2	17	中主中学校	110
		20	能登川中学校	110
		20	三上小学校	32
		21	甲賀中学校	90
		22	能登川中学校	145
	3	2	八幡商業高校	245
		3	明富中学校	195
		10	東大津高校	370
		23	彦根工業高校定時制	40
		122校		

2 広報活動

報道記録(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

年	月	日	内 容	報道機関
令和4	4	15	次の世代へつないでいくために	滋賀報知新聞
		29	非戦への思い新た	毎日新聞
	5	8	館長挨拶	滋賀報知新聞
		23	凡語	京都新聞
		26	戦争記録で平和考える	京都新聞
	6	8	2022年度子ども向け体験型平和学習「平和の学校あかり」を開校します	滋賀報知新聞
		10	戦時の道具に触れ県内の被害知る	中日新聞
		28	過酷な戦場フィリピン 滋賀県平和祈念館で企画展	滋賀報知新聞
	7	6	第31回企画展示「戦死者8,843名 フィリピンの戦場Ⅱ」	滋賀報知新聞
		12	戦争の悲惨さ、言葉と遺品で	京都新聞
		18	「フィリピンの戦場」第2弾	おうみ通信
		18	戦後77年 現代に引き寄せ重み説明	毎日新聞
		21	戦後77年 平和祈念する事業	滋賀報知新聞
		24	滋賀最多の戦死者を出した激戦地だった・・・	滋賀民報
	8	7	平和を祈念する日事業	滋賀報知新聞
		10	亡き父の日章旗、78年ぶりに帰郷	上毛新聞
11		遺族の願い 平和祈念館	読売新聞	
12		戦火の記憶 演劇で伝える	読売新聞	
15		比の戦闘「ばたばた死ぬ」	中日新聞	
18		戦禍の惨状 平和への思い新た	京都新聞	
21		県政NOW 「平和」を祈る	滋賀報知新聞	
25		県平和祈念館、今後の方向性は	滋賀報知新聞	
28	”戦争なくなって” 願い込め「あんどん」	滋賀民報		
9	11	下宿先の民家に残された作業帳	滋賀報知新聞	
	14	出征旗 息子の元へ	毎日新聞	
	19	世界平和への願い熱く	おうみ通信	
10	2	ボランティア活動	滋賀報知新聞	
	25	県内小中学生、平和への思い 絵筆に託す	報知写真新聞	
11	6	平和学習支援の取り組み	滋賀報知新聞	
12	2	語られることが少なくなってきた戦争体験	滋賀報知新聞	
	9	「被爆桜」また咲いて	産経新聞	
	11	次世代に 咲かせて伝えて	毎日新聞	

年	月	日	内 容	報道機関
令和5	1	8	11周年を迎え、新たな道も	滋賀報知新聞
		14	「戦争と女学生」 県平和祈念館で企画展	滋賀報知新聞
		15	女学生の学業 奪った戦争	京都新聞
			戦争の記憶が遠ざかるとき、戦争がまた私たちに近づく	滋賀教育新聞
		20	戦時下の女学生の生活を伝える	中日新聞
		23	小中学生の平和への思い	おうみ通信
	2	15	八日市高生徒がリーダー研修	滋賀報知新聞
		20	戦時下の女学生の姿	おうみ通信
	3	8	開館11周年記念ウィーク	滋賀報知新聞
		19	「子どもたちの足跡展」	湖国とりびゆめ

3 組織（令和5年3月現在）

（1）職員

館長	朝倉 敏夫
所長	成宮 寛夫
主任専門員	田井中洋介
副主幹	中西 まこ
副主幹	城野 達也
主査	上田 智史
主任主事	木村 大喜
会計年度任用職員	日高 昭子
会計年度任用職員	梅山 光彦
会計年度任用職員	木俣 美好
会計年度任用職員	杉村 陽子
会計年度任用職員	近藤 恵
会計年度任用職員	上柳 晴幹

（2）職員構成

区分	館長	行政職	学芸員	教育職	会計年度任用職員	合計
人数	1	3	1	2	6	13

（3）滋賀県平和祈念館運営会議

座長	朝倉 敏夫	（滋賀県平和祈念館 館長）
委員	中島 伸男	（東近江市戦争遺跡の会 世話役）
	中井 均	（滋賀県立大学 名誉教授）
	今堀 治夫	（一般財団法人滋賀県遺族会 会長）
	野瀬 隆行	（東近江市立愛東コミュニティセンター 館長）
	藤関 明雄	（あいとうマーガレットステーション 専務理事）
	古川 暁	（東近江市企画部企画課 課長）
	福島 栄寿	（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 会長）
	西澤 美重子	（滋賀県平和祈念館ボランティアの会 副会長）

（4）滋賀県平和祈念館展示等監修委員

委員	原田 敬一	（佛教大学 名誉教授）
	原山 浩介	（日本大学法学部 准教授）

4 決算（令和4年度）

○歳入状況

（単位：円）

科目	決算額
基金繰入金	23,062,805
国庫支出金	6,928,072
諸収入	1,564,385
寄附金	359,509
一般財源	994,000
合計	32,908,771

○歳出状況

（単位：円）

事業名	主な事業内容	決算額
管理運営費	施設維持管理費、施設運営費、事務費、広報費	18,240,481
展示事業	企画展示、特別企画展示、地域交流室展示	789,465
資料収集 保存事業	収蔵資料防虫防かび対策、収蔵資料等デジタルデータ管理・公開システム運用等	2,141,429
普及啓発事業	映画上映会、平和の学校あかり等	1,181,836
平和学習 支援事業	平和を願う子どもピースメッセージ絵画コンクール事業等	4,115,580
D X 推進事業	平和学習コンテンツ制作、ホームページリニューアル等	6,439,980
合計	計	32,908,771

5 施設概要

所在地 滋賀県東近江市下中野町 431 番地

建物概要

構造	鉄筋コンクリート	2階建
敷地面積	2,864.00㎡	
延床面積	3,115.45㎡	
	1階	1,759.03㎡
	2階	1,356.42㎡

開館年月日 平成24年(2012年)3月17日

平面図



6 利用案内

入館料	無料
開館時間	午前9時30分から午後5時
休館日	月曜日および火曜日（ただし祝日にあたる場合は開館） 年末年始（12月28日～1月4日） ※その他、業務の都合により休館する場合があります。
駐車場	約50台（無料）
アクセス	



- ・名神高速道路「八日市 I C」から車で約10分
- ・JR琵琶湖線（東海道線）彦根駅または近江八幡駅乗り換え、近江鉄道八日市駅からバスで約20分「愛東支所・診療所前」下車すぐ

7 関係規程

滋賀県平和祈念館の設置および管理に関する条例

平成 23 年滋賀県条例第 48 号

(設 置)

第 1 条 県民に戦争の悲惨さおよび平和の尊さを伝えることにより、平和を願う豊かな心を育み、もって平和な社会の発展に資するため、滋賀県平和祈念館（以下「平和祈念館」という。）を東近江市下中野町に設置する。

(業 務)

第 2 条 平和祈念館は、次に掲げる業務を行う。

- (1) 県民の戦争に関する体験の記録その他の資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。以下「資料」という。）を収集し、保管し、展示し、および利用に供すること。
- (2) 平和を願う豊かな心を育むために必要な普及啓発を行うこと。
- (3) その他平和祈念館の設置の目的を達成するために必要な業務

(開館時間等)

第 3 条 平和祈念館の開館時間は、午前 9 時 30 分から午後 5 時までとする。

2 平和祈念館の休館日は、次のとおりとする。

- (1) 月曜日および火曜日（国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日である場合を除く。）
- (2) 12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日までの日

3 知事は、必要と認めるときは、第 1 項に規定する開館時間を変更し、または前項に規定する休館日を変更し、もしくは臨時に休館日を定めることができる。

(特別観覧の許可)

第 4 条 平和祈念館が保管する資料の熟覧、模写、模造、撮影その他の利用（以下「特別観覧」という。）をしようとする者は、規則で定めるところにより、知事に申請し、その許可を受けなければならない。許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

2 知事は、前項の規定による申請があった場合において、次の各号のいずれかに該当

するときは、同項の許可をしないことができる。

- (1) 平和祈念館における秩序を乱し、または善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
- (2) 資料または平和祈念館の管理上支障があると認められるとき。
- (3) その他特別観覧を許可することが適当でないとして認められるとき。

3 知事は、第1項の規定による許可をする場合においては、資料または平和祈念館の管理上必要な限度において、条件を付することができる。

(特別観覧の許可の取消し等)

第5条 知事は、次の各号のいずれかに該当するときは、前条第1項の規定による許可を取り消し、または特別観覧を制限し、もしくは特別観覧の停止を命ずることができる。

- (1) 前条第1項の許可を受けた者（以下「特別観覧者」という。）が詐欺その他不正の行為によって同項の許可を受けたとき。
- (2) 前条第2項各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 特別観覧者がこの条例またはこの条例に基づく規則の規定に違反したとき。
- (4) 特別観覧者が前条第3項の規定により付された条件に違反したとき。
- (5) 当該許可に係る資料が災害その他の事故により特別観覧に堪えなくなったとき。
- (6) その他知事が特に必要と認めたとき。

(委 任)

第6条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、規則で定める。

付 則

この条例は、平成24年3月1日から施行する。ただし、第2条第1号（資料の展示および利用に係る部分に限る。）および第4条の規定は、同月17日から施行する。

滋賀県平和祈念館 年報 第11号 (令和4年度)

発行日 令和5年(2023年)8月25日
編集・発行 滋賀県平和祈念館
〒527-0157 滋賀県東近江市下中野町431番地
TEL 0749-46-0300 / FAX 0749-46-0350
E-Mail : heiwa@pref.shiga.lg.jp
印刷 株式会社モリワキ印刷



この冊子はグリーン購入法適合紙を使用しています